

「OOoの小技」第8回 描画作成ツール「Draw」の小技①

～「立体ロゴの作成」～

ホームページのタイトルや、文書の見出しなどで活用できるのが今回の「OOoの小技」です。ロゴの立体化とはどのようなものなのかを最初にご覧ください(右図)。このような立体化された文字を作ることができるのです。

描画作成

ワープロ文書に「立体ロゴ」を入れる方法

OpenOffice.orgにはいろいろなツールが付属しています。そのひとつに描画作成ツールである「Draw」です。ワープロ文書にもそのオブジェクトが使えます。文書作成ツール「Writer」の中で、立体ロゴを入れたい位置で、Drawオブジェクトを挿入します。その手順は、標準メニューの「挿入」→「オブジェクト」→「OLEオブジェクト」→「OpenOffice.orgの描画」です。これで、描画作成ツール「Draw」モードに移行します。

T アイコンを押してテキストボックスを作り、文字フォント、サイズ、色を指定して立体ロゴにしたい文字列を作ります。

続いて、「変更」→「変換」→「立体に変換」を押せば、立体ロゴが完成です。

このままでは、立体ロゴの向きが気に入らないので、ロゴの傾きなどを修正します。図形の回転のアイコン  をクリックすると図形をドラッグすることで自由に平面内の回転(図形の4隅のアイコンをドラッグ)、空間内の回転(図形の4辺のアイコンをドラッグ)ができます。

きれいな「立体ロゴ」にする工夫

文字のフォントサイズを大きくして、最初の文字列を作る。とりあえず、80ポイント程度の大きな文字とします。それを立体化し、図形オブジェクトとします。ワープロ文書内では、その図形(立体化されたロゴ)を文書内で縮小表示するのです。その結果、図形オブジェクトのドットがより小さくなり、立体ロゴがよりきれいに見えます。

立体化のオプション

立体化のオプションには多くのオプションが使えます。立体感の調節、色合いの調節、質感の表現などに使います。

【奥行き長さ】の設定では、立体ロゴの前後の厚みを調節することができます。

【角の丸み】を設定では、立体ロゴの角を鋭くするか、丸みを持たせるかを自由に調節することができます。

右の見本は、横に行くほど奥行きが長くなり、下に下りるほど角の丸みが出るように加工したものです。

【レンズの焦点距離】を変えることで、奥行き感を強調することができます。これを試してみたものが右の図です。

左側が短焦点レンズ(広角レンズ)にしたときの画像、右側が超焦点レンズ(望遠レンズ)にした時の画像になります。レンズの焦点距離を短くするほど遠近感が強く表す画像に変わります。カメラの映像と同じことですね。

【素材】の調節は、立体ロゴの質感を変えるためのものです。素材に透明感を加えたりすることが可能です。左側は透明感があるプラスチック風の物質に換えています。また、照明の色合いの微調整も可能です。

その他、オプションはいくらでもあります。試行錯誤で使い込むことでその効果的な使用方法が見つかるはずです。

